

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒の確かな学力の定着と学習意欲の向上につながる組織的な授業改善に取り組む。 ②国際教育を推進し、多様な価値観を受容する力を育む。 ③生徒会活動・学校行事等の活性化に取り組み、自己有用感やリーダーシップを育む。	①「主体的・対話的で深い学び」を組織的に研究・実践する。 ②52分授業、40期生からの新しい教育課程を円滑に実施する。 ③新学習指導要領及び高大接続改革への対応を検討する。 ④通級による指導を行う体制づくりを行う。 ⑤生徒会や委員会活動、学校行事を活性化させる。	①日常的な授業見学や研修会を実施し授業力を高める。 ①ルーブリック評価を効果的に行う。 ②予鈴の導入により、授業へ入るレディネスを整える。 ③新しい調査書に対応するために指導要録の記載例を検討する。 ④学級経営や授業に活かせるユニバーサルデザイン(「HODOGAYA-STANDARD」)の研究と導入を行う。 ④「自立活動」の授業研究と研修を行う。 ⑤生徒会本部と教員との意見交換の場を設ける。	①授業研究を行い、その後の生徒による授業評価結果を踏まえ、さらなる授業改善研究を実施できたか。 ①ルーブリック評価表を作成し、授業前に生徒に提示したか。 ②チャイムと同時に授業を始めることができたか。 ③新しい調査書に対応するために指導要録の記載例を検討できたか。 ④授業におけるユニバーサルデザインの研究が進み、「HODOGAYA-STANDARD」が定着したか。 ④「自立活動」の研究を行ったか。 ⑤会議を定期的に設けたか。 ⑤生徒からの発案があったか。	①	①	①	①	①
2 生徒指導・支援	①生徒とのコミュニケーションの充実を図り、きめ細かく粘り強い生活指導・生徒支援を組織的に行う。 ②部活動の活性化に取り組み、責任感や自己肯定感を育む。	①支援を必要とする生徒へのアンテナを高く張り、すべての生徒が学校を信頼し、安心した学校生活を送れるよう支援する。 ②問題行動の未然防止に努め、安全な学校生活を担保する。 ③部活動に係る活動環境を整備し、部活動への入部率、定着率を上げ、加入率40%以上を目指す。	①学年、教科担当者等で生徒情報を共有し、支援を必要とする生徒については通級による指導や外部機関との連携を検討する。 ②外部機関と連携した各種講演会、全校・学年集会等を通し、問題行動についての啓発活動を実施し、未然防止に努める。 ②一部のグループ・職員に負担が偏らぬよう組織的な生活指導体制を全職員で共有する。 ③部活動見学週間を設定する。 ③活動場所の調整を適切に行う。	①生徒情報の共有が十分にできたか。 ①通級による指導や外部機関との連携は円滑に行われたか。 ②問題行動の未然防止により、指導件数は前年度より減少したか。 ②特別指導体制は学年主体で組織的であったか。 ③部活動見学期間が活性化し、加入率40%以上を達成できたか。	①	①	①	①	①
3 進路指導・支援	①多様な進路希望の生徒に細かく対応するため、3年間の系統的な進路	①進路実現に向けた基礎学力の定着と家庭学習の習慣化を図る。 ②保護者への進路情報	①総合的な学習の時間で3年間を見通した進路活動を実践する。 ①生徒が進路情報を身	①3年間の進路活動は有機的な繋がりにより、進路実現につながったか。	①	①	①	①	①

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
	支援体制を充実させる。	の提供を積極的に行う。 ③卒業時の目標を持たない進路未決定者の数を前年度より減少させる。	近に参照できるよう進路指導室を整備する。 ①キャリアアドバイザー(サポートティーチャー)を活用し、進路相談体制を整える。 ①スタディサプリ高校講座を利用し家庭学習の習慣化を図るとともに基礎学力の定着を目指す。 ②保護者対象の進路説明会を学年ごとに実施し情報提供を行う。 ③卒業時の目標を持たない進路未決定者をなくすため、キャリアアドバイザーの積極的な活用を図る。	①進路指導室の利用状況はどうだったか。(延べ人数) ①キャリアアドバイザーへの進路相談件数はどうだったか。(延べ件数) ①家庭学習時間はどうか。(平均時間) ②保護者対象進路説明会への出席者数はどうだったか。(人数) ③卒業時の目標を持たない進路未決定者の数を前年度より減少させる。						
4	地域等との協働	①地域に開かれた学校、地域から信頼される学校をめざし、地域との連携・交流を推進する。	①地域に根付いた学校として、地域との連携・交流を推進する。 ①平成31年度より実施される「コミュニティ・スクール」についての準備を行う。 ③本校の魅力と特色を中学生、地域にアピールするよう努める。	①部活動に加えボランティアを募り、「かわしまホーム」や地域の行事への参加者を増やす。 ①「コミュニティ・スクール」の研究および研修を行う。 ③HPによるスピーディな情報発信に努める。	①地域行事への参加実態はどうだったか。(人数) ①「コミュニティ・スクール」実施に向けた準備の進捗状況はどうか。 ③HPの更新はどのくらいの頻度であったか。(回/月)	①	①	①	①	①
5	学校管理 学校運営	①生徒が安全で安心して生活することができる教育環境の管理に努める。 ②生徒と向き合う時間を確保するため、一層の組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 ③事故・不祥事の防止を徹底する。	①地域について学び、防災意識を高める。 ①補助的避難所としての防災マニュアルを作成する。 ①生徒のDIG研修を実施する。 ②会議・打合せを効率的に行う。 ③事故不祥事防止の啓発を年間を通して日常的に行う。	①職員及び生徒の防災意識を高める防災訓練と防災教室を実施する。 ①行政機関と連携し、期待される補助的避難所の役割について職員の共通理解を図り、防災マニュアルを作成する。 ①LHR等を活用し、生徒のDIG研修を実施する。 ②校内ポータルサイト等の活用により打合せ時間を短縮する。 ③個人情報の管理について継続的に啓発し、定期テストの採点のための持ち帰り件数を限りなくゼロに近づける。	①事後アンケートにより、生徒・職員に防災意識の変化が見られたか。 ①補助的避難所についての理解は進んだか。 ①防災マニュアルを作成したか。 ①生徒のDIG研修を実施したか。 ②定期テストの持ち帰り件数はどのくらい減少したか。	①	①	①	①	①